

和地ひとみレポート No.177

平成26年度の市の取組みの振り返り 行政評価の結果は？

■行政評価とは

…市は毎年、前年度の市の取組み（施策、事務事業）について評価を行い、より簡素で効率的な行政運営の実現を目指しています。この評価には以下の2種類の評価があります。

①施策評価

『東大和市総合計画』に掲げる32施策について、各施策関係課長が平成26年度の振り返りを行い、今後の方向性を検討するもの。

②外部評価会議

市の事務事業評価に市民や民間的な視点を加えることを目的に、外部評価会議を実施。（委員は市長指名4名以内、公募による市民4名以内。今年度の委員は7名）平成27年度は16の事務事業を取り上げた。

…この度、上記2つの評価結果が出ました。この結果の概要は市報及び市のホームページでも公表されます。また、施策評価結果報告書及び事務事業評価表（478事業）についても、市のホームページで公表予定。また、市役所の行政情報コーナー、行政管理課窓口でも閲覧できる予定です。

■様々な指標で見た評価は

…施策評価では市民の満足度や施策の進捗、充実度など成果を確認するためのいくつかの指標を設けて33年度の目標数値に対し、どのような状況かが確認できます。また、各施策のために平成26年度にした取組み、評価をする時点での課題、今後の方向性や対策、指標に対するコメントなども明記されています。

…32の施策に関する『市民満足度調査』の数は40。一つの施策に対して複数の満足度調査を実施しているものもあるため、このような数になっています。その結果の内訳は、前年度（25年度）の満足度よりアップしているものが20項目。低下しているものは18項目。同様のものが1項目。前年度に計測をしていなく比較ができないものが1項目となっています。

（主な満足度の結果概要は裏面の一覧表参照）

…また、32の施策のうち『市民の満足度調査』をせずに評価しているものは「適正な財政運営」についてです。これは、市民の満足度というより、実際の数値で施策の効果を測れるので当然のことですが、結果で気になったのが経常収支比率の向上です。この経常収支比率とは財政構造の弾力性を測定する指標で、低ければ低いほど政策的に使えるお金が多くあることを意味します。

…今まで総務省では経常収支比率の目安として80%を上回らない方が良いとしていました。しかし近年、100%を超えてしまう自治体も出てきたため総務省



は『社会経済構造や地方財政制度が変化してきた中で、経常収支比率の当該基準の妥当性を改めて検証すべきではないか』とのコメントを今年の7月に出しています。

…総務省の見解に変化がみられるとはいえ、東大和市が様々な施策の目標を実現するためには一定の財源が必要なことも事実です。経常収支比率が高ければ、新たな施策に使える予算も見込めません。今回の施策評価では、経常収支比率についてのポイントが、以下のとおり明記されています。

【経常収支比率(25年度 90.1%⇒26年度 91.1%)】

【その内訳と比較】

(増加項目)

扶助費 18.2%⇒18.6% 物件費 14.6%⇒14.8%

繰出金 10.6%⇒11.4% 補助費等 11.4%⇒11.7%

(減少項目)

人件費 24.2%⇒23.8% 公債日 10.4%⇒10.1%

【コメント】

主に扶助費や医療・介護にかかる特別会計繰出金の増加に伴い、これに係る経常収支比率が1.2ポイント増加（悪化）した。

■市民感覚の外部評価は

…一方、7月に4日間開催された外部評価会議では、16の事業について市の担当課が作成した「事業の振り返りシート」を資料とし、事業の内容について委員は担当職員に質問し、対象事業について様々な評価をしました。この外部評価は、その事業に対する結論を出すということではなく、外部評価会議での結果を市が参考にするというもの。各事業について『拡大させるか、現状維持か、廃止に向けて縮小するか、休止または廃止させるか』、また、コストについては『増やすか減らすか』などの結果が出されます。

…各事業に対する各委員の意見は様々。全員一致で「コスト、成果に対し現状維持」という結果となった事業は「老人福祉館事業」「地区集会所管理事業」「学習等供用施設（地区会館）管理事業」の3事業でした。

■各委員の感想は？

…この外部評価の結果報告書では、以下のとおり各委員の感想も公表されています。この感想は、市民の率直な感覚と似ていると思います。外部評価は東大和モデルとして、一定の評価を得ている取り組みですが、今後は、この結果を活用し、市民の「もやもや」を無くすような取り組みや姿勢を市も模索する必要があると思います。（裏面につづく）

【各委員の感想】 ※原文通り



- ☞ 公開から2年目。市とのやり取りをして思うのは、法律上の課題があってネガティブな発想が先に出る。部門間の調整が必要とか、市長部局と他の実施機関の関係があるという話が出てくる。
- ☞ 振り返りシートに課題は書かれているが、振り返りの結果が書かれていない。その点を追加してほしい。
- ☞ 外部評価委員として2年目で、まだ勉強が足りない。公民館審議会のことが気になって、もう少し突っ込んで聞けば良かった。来年どのくらいできるか。更にまた研究したい。
- ☞ 1年目4日間、2年目4日間と通算で8日間参加して、満足度は6割ぐらい。残り4割は的確な意見が出せなかったこと、実効性のあることが無くてややもやしている。意見を言えればいい会議なので、意見を言わせてもらった。
- ☞ 参加2年目。皆さん一生懸命で、こんな事業があるのか、今まで知らなかった。毎年、毎年、市政を見つめていくしかないのかと思う。
- ☞ 内容について深く理解していきたく思う。時々、感情的な発言をしてしまったと反省している。質問に対して抽象的な回答が多いので、担当者が来ているので具体的な時期とか答えを聞きたいと思っていたが聞いた部分もあってよかった。委員として客観的に冷静に、個人的ではなく市民のために税の使い方として恩恵を受ける人、受けない人のアンバランスが評価している中で気になった。負担する人がたくさん負担して、何人の利用なのか。配慮が足りていないと思う。

【主な市民満足度などの結果】

		25年度	26年度	33年度 目標
豊かな人間性と文化を はぐくむ まちを築く ために	学校教育の充実に対する市民の満足度	15.80%	15.90%	21.90%
	生涯学習活動の充実に対する市民の満足度	20.40%	21.10%	32.90%
	青少年の健全育成に対する市民の満足度	10.60%	10.30%	20.00%
	市民文化の振興に対する市民の満足度	18.70%	19.20%	25.00%
	スポーツ・レクリエーション活動の推進に対する市民の満足度	15.30%	19.00%	21.60%
健康であたたかな心のかよいまちを築く ために	保健・医療の充実に対する市民の満足度	25.60%	28.00%	34.90%
	高齢者福祉の充実に対する市民の満足度	15.40%	13.60%	24.10%
	子育て支援の推進に対する市民の満足度	13.60%	15.70%	21.20%
	児童館、学童保育所、子どもの遊び場の環境や安全に対する市民の満足度	21.70%	21.00%	31.30%
	社会保障の充実に対する市民の満足度	12.40%	12.80%	22.40%
暮らしと産業が調和した活気あるまちを築く ために	農業振興施策に対する市民の満足度	12.50%	10.80%	16.30%
	工業振興施策に対する市民の満足度	7.10%	8.00%	12.20%
	商業振興施策に対する市民の満足度	8.30%	8.40%	15.60%
	観光事業の推進に対する市民の満足度	6.40%	6.20%	14.70%
	消費者生活に対する市民の満足度	12.20%	10.20%	15.00%
環境にやさしく安全で快適なまちを築く ために	市街地の整備に対する市民の満足度	18.70%	20.50%	21.30%
	市民の定住意向	71.50%	69.60%	72.40%
	防災体制の推進に対する市民の満足度	17.40%	22.00%	25.00%
	防犯体制の推進に対する市民の満足度	13.80%	15.70%	22.00%
	ごみの減量とリサイクルの推進に対する市民の満足度	23.40%	28.70%	32.00%
相互の理解と協力を 支えられる まちを築く ために	市民一人1日あたりのゴミ排出量	760.8g	726.8g	680.0g
	人権尊重・男女共同参画社会の確立に対する市民の満足度	12.60%	11.20%	16.80%
	情報化社会への対応に対する満足度	9.80%	9.10%	13.80%
	市民参画のまちづくりの推進に対する市民の満足度	10.60%	10.40%	14.00%
	自治会への加入率	36.10%	35.10%	36.80%
	恒久平和の実現についての施策に対する満足度	13.00%	13.50%	17.70%
適正な 行財政運営 の実現	国際交流・国際理解を深める施策に対する満足度	9.20%	7.80%	8.90%
	職員一人当たりの市民の数	182.4人	183.6人	189.0人
	東大和市の行財政運営についての満足度	3.40%	4.30%	8.70%
	市の職員の窓口対応全体についての満足度	58.50%	52.50%	50.00%

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート

「身近なようで知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思います。」

【プロフィール】



1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。『「学校」の外の一般社会で挑戦しよう」とベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報などに従事。2011年4月、初当選。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
 ☒ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
 〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102